

マス類種苗生産におけるミズカビ病防除の研究

(予算区分 [外部資金] 研究期間 2025～2026 年度)

担当：水産・海洋技術研究所 富士養鱒場 安藤大輝・高田伸二・青島秀治

【研究の背景とねらい】

- ・マス類の種苗生産では、卵を授精からふ化まで管理する過程でミズカビ病が発生し、大きな被害を及ぼすため、その防除が重要な課題となっています。
- ・これまでは、ブロンポールを有効成分とする水産用医薬品を用いてミズカビ病を防除してきましたが、同医薬品の販売終了に伴い新たな医薬品の開発が求められています。
- ・そこで本研究では、ミズカビ病を対象とした水産用医薬品の開発に向け、新たな有効成分として期待されるグルタルアルデヒド（以下、GA と表記する）のニジマス卵におけるミズカビ病防除効果に関する知見を集積することを目標とします。
- ・本研究は、農林水産省の「水産防疫対策委託事業」に参画して実施しています。

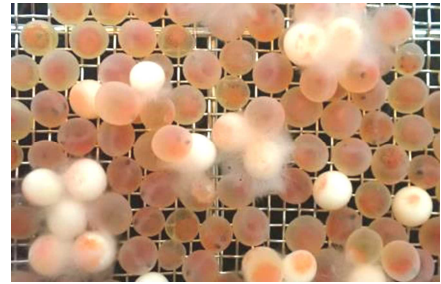


図 ニジマス卵に発生したミズカビ病。

【これまでに得られた成果】

(2025 年度の成果)

- ・薬浴濃度および頻度を変えて防除効果の高い薬浴条件を検討したところ、いずれの濃度においてもミズカビの付着率が低く、従来の医薬品と同等の防除効果が確認されました。また、薬浴頻度が高いほど顕著な効果が認められました (図)。

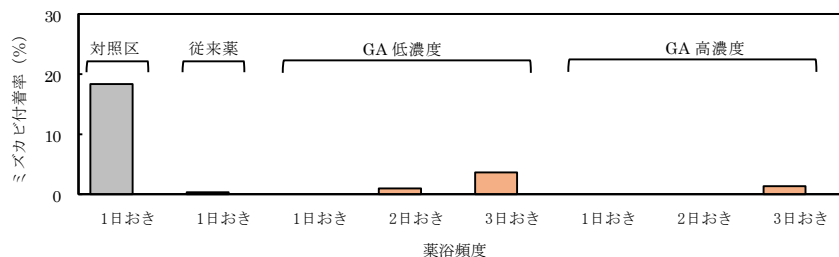


図 薬浴条件ごとのミズカビ付着率。

- ・GA による薬浴の卵の安全性を検討したところ、薬浴濃度が高い場合や、同じ濃度であっても薬浴時間が長い場合にふ化率の低下が見られたことから、薬浴濃度および時間の双方がふ化率に影響を及ぼすことが示されました。

【期待される成果】

- ・GA を用いたミズカビ病防除効果に関する知見を集積することで、新たな水産用医薬品の開発が期待されます。
- ・ミズカビ病を防除することで種苗生産の生産効率が向上し、県内養鱒業の種苗の安定供給につながります。

【今後の計画】

- ・複数の水温帯でのミズカビ病防除効果の違いを把握することで、幅広い水温条件下で有効な薬浴条件を明らかにします。
- ・より長期的な安全性を評価するため、GA で薬浴した卵からふ化したニジマスの成長や生残への影響について検討します。

(作成 2026 年 4 月)